

「日本語教育の参照枠」の3つの理念とは

「日本語教育の参照枠」では、日本語学習者を社会の一員として日本語を使って様々な社会的な活動に参加していく存在と捉えます。多様な日本語使用を尊重し、社会と教室を隔てることなく、日本語を通じた学びの場を人と人が出会う社会そのものとするこ
とによって、共生社会の実現に寄与していくことを目指します。

1 日本語学習者を社会的存在として捉える

学習者は、単に「言語を学ぶ者」ではなく、「新たに学んだ言語を用いて社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在」です。言語の習得は、それ自体が目的ではなく、より深く社会に参加し、より多くの場面で自分らしさを発揮できるようになるための手段なのです。

2 言語を使って「できること」に注目する

社会の中で日本語学習者が自身の言語能力をより生かしていくために、言語知識を持っていることよりも、その知識を使って何ができるかに注目します。

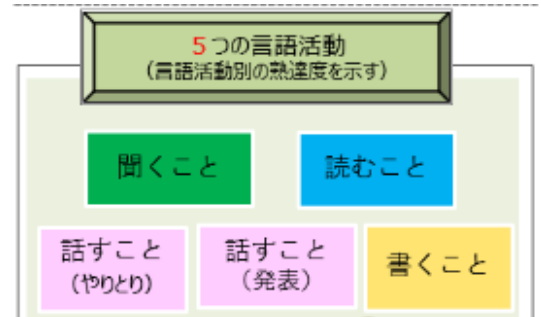
3 多様な日本語使用を尊重する

各人にとって必要な言語活動が何か、その活動をどの程度遂行できることが必要か等、目標設定を個別に行うことを重視する。母語話者が使用する日本語の在り方を、必ずしも学ぶべき規範、最終的なゴールとはしません。

「日本語教育の参照枠」が示すものとは

日本語の学習・教授・評価を考える際に必要になる、日本語のレベルを示した全体的な尺度（次ページ）と、実生活において日本語を使ってどんなことができるかを表した言語能力記述文（Can do）を示しています。

「聞く」「読む」「話す（やりとり・発表）」「書く」の言語活動別に実生活において日本語を使ってどのようなことができるのかに注目しています。



今回は約 500 項目の活動 Can do を示しています。言語活動は、日本語学習者の努力だけではなく、周りの人々の配慮や歩み寄りによって達成できることもあります。



6つの日本語能力のレベル

「日本語教育の参照枠」では、日本語教育に関する様々な指標を示しています。その中でも最も基本的なレベル尺度は、日本語能力を6レベルで示した「全体的な尺度」です。

全体的な尺度（抜粋）

熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。
基礎段階の言語使用	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・各レベルについての説明は、CEFR 日本語版（追補版）の訳文を基にし、CEFR 補遺版を参考に一部修正を加えた。

欧州では多くの国々が、移民に対してB1レベルまでの学習機会を保障しています。日本においては、下記のように記されており、今後は国と地方公共団体が学習機会の提供に努めていくことになっています。

日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針

（令和2年6月23日 閣議決定）

「地域に在住する外国人が**自立した言語使用者**として生活していく上で必要となる日本語能力を身に付け、日本語で意思疎通を図り、生活できるよう支援する必要がある（p.9）」

LANGUAGE 日本語

日本語能力自己評価ツール
にほんごチェック!

今、日本語でどんなことができるかチェックしてみよう。

チェック! する前に

文化庁広報誌「ぶんかる」
キャラクター：ぶんちゃん

利用規約 プライバシーポリシー お問い合わせ

文化庁 © Japanese Language Division, Agency for Cultural Affairs

書くこと

あなたの力は
B1です。

B1では、こんなことができます。

身近で個人的に関心のある話題について、
つながりのあるテキストを書くことができ
る。私信で経験や印象を書くことがで
きる。

他の活動もチェック!しよう

読むこと 話すこと (やり取り) 話すこと (発表) 書くこと

チェック!した言語活動のまとめ

日本語能力の自己評価ツール「にほんごチェック!」を開発中です。
14言語で学習者が自分の日本語能力を判定することができます。
学習者が自分のレベルを知り、何ができるようになれば次のレベルに上がるのかが分かることで、自律的な学
習を促していくために活用してもらいたいツールです。

期待される効果とは

- 国内外共通の指標・包括的な枠組みが示されたことにより国や教育機関を移動しても継続して適切な日本語教育を受けることができるようになります。
- 生活・就労・留学などの分野別の能力記述文 (Can do) が開発され、それによって生活者・就労者・留学生等に対する具体的かつ効果的な教育・評価が可能になります。
- 日本語能力が求められる様々な分野で共通の指標に基づく評価が可能となり、試験間の通用性が高まります。
- 適切な日本語能力判定の在り方が示されたことにより試験の質の向上が図られます。

国内外における日本語教育の質の向上を通して、共生社会の実現に寄与します

【関連情報】

「日本語教育の参照枠」(報告) 令和3年10月12日

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/93463101.html

「日本語教育の参照枠」活用の手引き <https://www.bunka.go.jp/>

日本語能力自己評価ツール「にほんごチェック!」 <https://www.bunka.go.jp/>

(文化庁国語課)